

泥の河 (Muddy River)

観賞日 2020年12月7日 上映時間 105分

【概要】

制作 1981年 上映時間 105分
原作 宮本輝
脚本 重森幸子
監督 小栗康平
撮影 安藤庄平
出演 田村高廣（板倉晋平）、藤田弓子（板倉貞子）
加賀まりこ（松本笙子）朝原靖貴（板倉信雄）



【あらすじ】

昭和31年、大阪。うどん屋を営む板倉夫妻。一人息子で、小学3年生の信雄は同い年の少年松本喜一（きっちゃん）と親しくなる。喜一には11歳の姉銀子がいた。姉弟は水上生活者で通学はしていない。母親が舟の上で客をとって生計を立てている。姉弟と仲良くなった信雄は二人を家に招き歓待する。喜一は皆の前で軍歌を歌い、信雄の父、晋平は得意の手品を披露する。天神様の縁日。信雄と喜一は晋平から小遣いをもらい勇んで出かけるが、途中で喜一が小遣いを落としてしまう。仕方なく舟に戻った二人であったが、信雄はそこで見てはならないものを見てしまった。やがて、松本一家が生活する舟が突然移動を始める。それに気づいた信雄は舟を追いかけるが・・・。

宮本輝の同名小説を監督デビューの小栗康平が映画化。小学3年男子のひと夏の経験。

【解説】

■ポイント

●1956年当時の日本

戦後10年が経過、朝鮮戦争の特需もあり経済白書は「もはや戦後ではない」と宣言。しかし、戦争の傷跡はまだ残り、庶民の生活は苦しかった。

当目を象徴するもの：柝若の相撲、ランニング姿の少年、ラムネ

●原作者・宮本輝（1947年～）

・神戸市出身の小説家。1970年、追手門学院大学卒業。広告代理店勤務を経て文筆生活。デビュー作の本作で太宰治賞を受賞。翌年の「螢川」で芥川賞を受賞し、作家としての地位を築く。

・他に「道頓堀川」（1981年）、「優駿」（1986年）作品の殆どが映画化、ドラマ化されている。

●加賀まりこ（1943年～）

・東京神田出身。1964年の「乾いた花」「月曜日のユカ」等での小悪魔的ルックスで「和製ブリジット・バルドー」と呼ばれる。
・劇団四季の「オンディーヌ」で主役を演じ、本作でキネマ旬報助演女優賞を受賞

●受賞

第5回日本アカデミー賞：最優秀監督賞

第55回キネマ旬報日本映画ベスト10：1位

■見どころ

●子役三人の演技

田村高廣、藤田弓子、加賀まりこの演技も良いが子役3人が素晴らしい。

●戦闘シーンのない反戦映画

